



独立行政法人国立病院機構

**呉医療センター 中国がんセンター**

広島県呉市青山町3-1 TEL 0823-22-3111 (夜間・休日 TEL 23-1020)

<http://www.kure-nh.go.jp>

発行責任者 呉医療センター院長 上池 渉



**独立行政法人国立病院機構呉医療センターの理念**

- 患者さまに信頼される質の高い医療をめざします。
- 患者さまの生命と人権を尊重します。
- 職員が誇りをもって働ける病院をめざします。
- 自立した健全な運営をめざします。

**CONTENTS**

外科系診療部長就任のごあいさつ .....	2	床ずれをつくらないために .....	10
呉医療センター メディカルフェスタ2009		職場紹介 4B病棟 .....	11
— 手をつなごう 地域の医療 — を開催して .....	3	学校祭を終えて .....	12
「第6回 病院ボランティア講座」開催 .....	5	座禅研修を振り返って .....	13
放射線科医の仕事とは .....	6	「看護学校1日体験入学」を企画、実施して .....	14
「糖尿病・内分泌・代謝内科」について .....	7	「院内掲示(ご意見への回答)」について変更しました」 .....	16
リンパ浮腫外来の紹介 .....	8	病院紹介DVD ver.2が完成しました .....	16



## 外科系診療部長就任のごあいさつ

外科系診療部長 吉川 幸伸

昨年7月に、外科に赴任してから1年余りが経ち、この度、9月1日付で外科科長・外科系診療部長を拝命致しました。一言ご挨拶申し上げます。

昨今、医療現場においてチーム医療の重要性が強調されていますが、「チーム医療」とは何でしょうか。

医療の大きな目的は「治るべき病気を治す」ということです。そのために医師、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士などの多くの職種が、知識を蓄え技能を磨き、各分野の専門家として治療に関わっています。チーム医療は、専門職ごとにそれぞれの領域で役割と責任を果たすことで成り立ちます。それぞれの専門分野での経験や知識、技術を集約して、患者さんに最も適した治療にあたります。しかし、技術を提供するだけが医療ではありません。「患者さんが、希望を持って過ごせるよう支援する」ということも、もうひとつの大きな目的です。多く

の患者さんが身体的な苦痛と同時に心理的な問題や社会的な問題、精神的な問題を抱えています。そこで多職種が関わり情報を共有し、連携を図りながら協力することで、多方面の専門的な立場からの手助けを行なうことができます。これによって総合的に効率よくきめ細かい良質な医療を提供することができます。

さてチーム医療の主役は誰でしょう。患者さんご自身なのです。患者さんご自身が主体性を持って、積極的にチームに参加していただくことが重要です。専門分野からの助言や情報について十分な説明を受け、納得された上で治療にご協力ください。患者さんご自身も治療の目的を理解されて協力されることが大切です。一つの目標に向かって一緒に取り組むことで、チーム力が一つに集まり効率よく支援体制を進めることができます。

そうすることにより、より良い治療を受けていただくことができるものと考えています。



## 呉医療センター メディカルフェスタ2009 - 手をつなごう 地域の医療 - を開催して

実行委員長 竹原 和宏

### 【キャッチコピー】

9月27日に第2回目呉医療センターメディカルフェスタ2009を開催しました。今年は毎年市民会館で開催していたがん講演とメディカルフェスタの同時開催としました。今回のキャッチコピーは、「手をつなごう 地域の医療」と決定しました。急性期病院の在院日数は短縮していく中、患者さんは一カ所の医療機関で治療が完結することは少ない状況になってきています。そのため、地域の医療機関が役割分担し、連携をとって切れ目ない医療の提供が重要とのことでコンセプトの決定をしました。キャッチコピーをイラストで表現し、パンフレットの裏表紙に掲載しました。また、テーマに付随した「急性期病院の役割」「かかりつけ医を持ちましょう」の説明ポスターも作成し、会場に掲示し、当日来場者の方にも配布いたしました。

### 【ポスター】

メディカルフェスタ2009のポスターは昨年に引き続き、広島市立大学 芸術学部の中村 圭先生にお願いしました。何度か打ち合わせをし、できあがってきたポスターには、いろいろなイベント内容がデザインされた黄色とオレンジの色調は、楽しく暖かい雰囲気が伝わりました。ポスターのデザインは宣伝用のうちわにもアレンジし、かわいいと大人気でした。また、当日スタッフTシャツの胸にもポスターのイラストをプリントしました。フェスタを終了して改めてポスターを眺めるとこの1枚のポスターにフェスタの会場が浮かび上がって来るようです。

### 【イベント】

スタッフが前日から準備した会場に、当日朝早くからパルンアートの小田さん一家が風船でデコレーションをほどこしていただき、メルヘンなイベント会場となりました。お天気にも恵まれ、10:00に玄関ホールでの院長の開会宣言で開幕しました。

今年度も職員、患者さんや家族の方、ボランティアや和庄小学校、絵手紙同好会の皆様や元職員の方々などに絵手紙を募集したところ、総勢1000通の作品展があり、体育館の壁一面、描いた人の想いが伝わる魅力あふれる作品で埋め尽くされました。その他にも体育館では、各種介護用品の展示やゲームも有り、子供達にも人気でした。また、今年はりハビリスタッフによる革細工の体験コーナーもあり、子供達だけでなく大人の方も夢中で取り組み、自分の作品を手にした顔は大満足の笑顔でした。外来フロアでは昨年同様小児科病棟の保育士と看護師によるハンドベルコンサートも開催されました。その他、風船アートのピエロやボランティアのパンダ



さんは小さな子ども達の人気者でした。今年新設した最新医療の紹介コーナーでは内視鏡下での手術の映像を山下先生の解説でDVD上映され、迫力ある映像に来場者の方のみでなく、職員も取り囲み興味深く観覧しました。映像と身近での質問を受けながらの医師による解説はわかりやすく、好評でした。看護師によるメタボ健康測定コーナーと栄養師による治療食紹介コーナーは混雑するほどの人気でした。Dr体験コーナーではこわごわ本物の内視鏡をさわってみたり、聴診器で心臓や肺の音を聞いたり、普段の病院とはひと味違った楽しい説明会が繰り広げられていました。薬が出来るまでのコーナーではお菓子を薬の包装の機械で包装し、出てくる様子をお菓子はのぞき込んで見ていました。包装されたお菓子は、かわいい絵のついた薬袋に入れてもらい、うれしいおみやげになりました。感染対策委員会主催の手洗いコーナーはインフルエンザの影響もあり興味津々でした。グリッターバグ（手洗いトレーニングマシン）を体験した人は、正しい手洗いが実感できた様です。となりの検査科のゼリーの超音波映像や病理の顕微鏡で実際の組織を見るコーナー、放射線技師による検査の被爆の説明や、NSTによる嚥下体操などそれぞれ専門職の創意工夫がし

てあり、興味ある内容で職員からも「1日では見切れないね。」との声がありました。その他、助産師のベビーマッサージコーナーでは気持ちよさそうにリラックスした赤ちゃんの輪が出来ていました。体育館通路には救急車も展示され、乗り込むことも出来、実際の救急



出勤場面の映像を見ながら救急部長宮加谷先生の説明もありました。

### 【がん講演】

元フジテレビアナウンサーの逸見政孝さんの夫人、逸見晴恵さんによる「がんを勝ち抜くために家族に出来ること」のテーマで行われた講演会も盛況で200席満席状態でした。



がん告知、インフォームドコンセント、セカンドオピニオンなどの重要性を実体験で訴えられ、納得のいく医療を受けるよう講演をされました。当院研修センターでの講演は演者が身近に感じられ、セカンドオピニオンについて聴講者からの質問に当院の医師が答えたり、演者の逸見さんからも当院の医師への質問があったりと、市民がん講演にふさわしい活発なディスカッションがされました。

当日は総勢744名の方にご来場いただき、事故やトラブルもなく予定通り終了いたしました。どうもありがとうございました。



## 「第6回 病院ボランティア講座」開催

ボランティアコーディネーター 小田 順子

本年6月10日(水)、11日(木)及び12日(金)午前10時から、「第6回 病院ボランティア講座」が当院地域医療研修センターで開催されました。この講座は呉医療センターと当院ボランティアの会「医療センターボランティアKURE」の共催によるもので、全3回コースです。講座1日目は、当院の方針や病院各部署の役割の説明、当院感染管理認定看護師による感染防止講習、接遇インストラクターによる接遇講習が行われました。2日目は、放射線技師長から「ボランティアについて」、また、ボランティアコーディネーターから「病院ボランティア活動の心得」について、お話をいただきました。特に「医療センターボランティアKURE」による各活動の様子を写した写真スライドを用いた活動紹介（外来、癒しの文庫、緩和ケア病棟、小児病棟、イベント開催等）については、具体的な活動内容に加えてボランティアの必要性ややりがいについても各グループから話があり、皆さん興味深そうに病院ボランティア活動の話に耳を傾けていらっしゃいました。3日目は、理学療法士長から体験実習を含む車椅子講習が行われ、全講座を通して盛り沢山の内容となりました。連日、20名余りの受講者が集まり、ボランティアは全く始めてという方々の他、現会員も含めて皆さん熱心にメモを取られたり、質問されたりしていました。



今回の3日間のボランティア講座を通して、特に好評だったのが「ボランティア活動と感染防止」の講習です。「感染防止」と聞くと、何か特別なことをしなければならないのでは？と思ってしまうかもしれませんが、日常の手洗いの仕方をちょっと工夫するだけで、患者さんや自分自身を感染から守ることができます。講習では身近な市販消毒

剤やマスクを取り上げた説明等、ボランティア活動のみならず家庭生活にも使える豆知識を講師の先生にわかりやすく教えていただきました。新型インフルエンザの流行で、注意が必要とメディアでは報道されているものの、皆さんあまり実感がなかったようですが、この講座で日頃簡単に考えていた手洗い・うがいについて、「感染防止にいかにか大切か実感できた！得した感じ！」と喜ばれました。



今回の講座を通じて13名の方が新たにボランティアの仲間として加わり、現在の活動登録者数は95名となりました。新しい会員の皆さんには追加研修も随時行われ、それぞれのグループで活動を始めていらっしゃいます。

病院ボランティアは、常に患者さんの視点をもって、患者さんの日常を創り出す手助けをするプロです。ボランティアには医師や看護師の仕事はできませんが、一人の地域住民として存在することで、医師や看護師ではできない、ボランティアにこそできることはたくさんあります。病院という非日常の中に季節を取り込んだり、あたたかい雰囲気をつくり出したり…、それは病院を一步外へ出ると特別なことではなく、普通のことであるかもしれません。しかし、そのような環境づくりを病院で行うことはボランティアだからこそできることではないでしょうか。

黄色やブルーのエプロン姿の方をみかけたら「こんにちは！」と声をかけてみてください！ボランティアの仲間も随時募集中です。自分のペースで、やりたいことに挑戦したり、特技を活かしたりするボランティア活動をあなたも始めてみませんか？

【ボランティアお問い合わせ：22-3111まで】



## 放射線科医の仕事とは

放射線科科長 豊田 尚之

平成21年4月より、呉医療センターに勤務することになった放射線科医師の豊田です。広島大学出身で、卒業後は広島市民病院や土谷総合病院、マツダ病院、国立大竹病院に勤務し、2年近く米国へ留学した後は、再び広島大学病院で7年あまり勤務し、今回こちらに赴任することになりました。

放射線科医師の仕事は、なかなか患者さんには見えにくい、わかりづらい分野だと思われるので、どんな仕事なのか少し説明させていただきます。放射線科には大きくわけて、皆さんが受けたCTやMRI、核医学、超音波などの検査画像をみて、診断レポートを作成する画像診断という分野と、主にがん細胞に放射線を当てて、がんを退治する放射線治療に分けられます。これら2つの分野は、米国はもちろん、日本そして広島地区においてもほぼ完全に分業化されており、一人の放射線科医師が兼任することはほとんどありません。私はといえば、この2つのうち、画像診断を主な仕事とする放射線診断医ということになります。実はここで、第3のピールならぬ、第3の放射線分野が出てきて、それがIVR（アイブイアールと言います）という仕事です。放射線科の仕事というのは、放射線を使う仕事なので、当然レントゲン博士がX線を発見して以降の100年あまりの歴史ですが、IVRは誕生してまだ40年くらい、実際さかんになったのはここ20年くらいの歴史しかありません。それでも諸外国ではIVRだけを専門にしている医師も多くいますが、日本では先ほどの画像診断医が兼任している場合が大多数です。ただし中身は千差万別で、本来は画像診断医だけでも、IVRもやっています、という医師もいれば、逆にIVRが専門だけでも、画像診断もやっています、という医師もあり、基本的にはどちらかに比重がかかっているのが普通です。前置きが長くなってしまいましたが、私はといえばIVRを専門とする画像診断医ということになります。

ではIVRとはなんぞや、という話に移ります。一言で言うと、画像をみながらカテーテルを使ったり、針を刺して、患者さんの検査や治療を行う分野のことを言いま

す。最近では外科領域などにおいても、低侵襲治療が盛んで、内視鏡を用いた手術がよく行われていますが、このIVRは、患者さんの体に1mm前後の針の穴、あるいはカテーテルの穴の大きさしか開けない訳ですから、低侵襲治療の最たるひとつと言えましょう。

我々放射線科医師が扱う臓器は、肺や肝・腎、子宮、膀胱などの腹部、四肢、骨などを対象としています（心臓に関しては循環器科医師が、脳内に関しては脳外科医師が行います）。実際、最も多く手がけているIVRは、肝がんに対するカテーテル治療で、現在TACEと呼んでいます。この手技は、IVR誕生初期の頃からある比較的伝統的な治療ですが、現在でも、日本全国の病院で多く行われており、最近では欧米でも肝がんの患者さんが増加しており、これら日本で発展してきたTACEの手技が諸外国でも盛んに行われるようになってきています。

また胃静脈瘤をつぶす治療（BRTOと言います）や、カテーテルを体内に留置するリザーバー治療、膿を取り除くドレナージ、あるいはCTをみながら腫瘍の細胞を採取する針生検なども行っています。また外傷や体内からの出血（鼻血、咯血、吐血、下血、尿路出血、産科出血など）に対して、緊急で出血を止める治療（これを塞栓術と言います）など、救急医療の現場においても、このIVRは威力を発揮しています。

これらIVRの分野に関しては日本IVR学会という学会があり、私もこの学会のIVR専門医という資格を取得していますが、広島県内にはこの資格を有する医師は10人余りといまだ少ないのが現状です。またIVRに関しては、保険適応ではない治療も少なくなく、専門医がいても必ずしもその治療を受けられるとは限らないのが難点です。なお当院では、これらIVRは放射線科医師不足の影響などもあり、現在、臨床各科からの依頼を通じて行っているため、基本的には内科や外科などでとりあえず相談して頂くことになっておりますので、あしからずご了承ください。以上簡単ではございますがご挨拶とさせていただきます。



## 「糖尿病・内分泌・代謝内科」について

内科科長 河村 智一

糖尿病・内分泌・代謝内科を紹介させていただきます。糖尿病・内分泌・代謝内科では、糖尿病や甲状腺疾患、副甲状腺疾患、下垂体疾患、副腎疾患、脂質異常症、高尿酸血症、電解質異常等を診察させていただいております。

その中でも圧倒的に多い疾患が糖尿病です。2007年の国民健康栄養調査の結果によると、我が国の糖尿病患者は約890万人いると言われており1,000万人を突破するのは時間の問題と言われております。毎年約16,000人程度の糖尿病患者が糖尿病腎症で透析となっており、新規透析導入疾患の第1位となっております。また毎年約3,000人の糖尿病患者が糖尿病網膜症で失明しており、以前は後天性の失明原因の第1位でしたが、内科や眼科の治療レベルが向上している現在でも第2位となっております。糖尿病では糖尿病神経障害や虚血性心疾患、脳梗塞、閉塞性動脈硬化症などの動脈硬化性疾患にも罹りやすくなります。また、風邪に罹りやすくなったり、傷が治りにくくなったりします。肺炎、結核、膀胱炎、白癬症のみならず、腎膿瘍、肝膿瘍、気腫性腎盂腎炎、気腫性胆嚢炎、化膿性脊椎炎、腸腰筋膿瘍など感染症にかかりやすくなります。

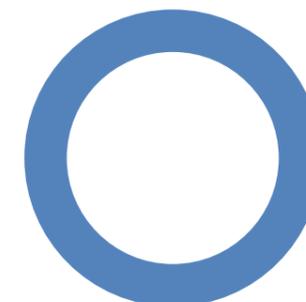
糖尿病に関しては現在、5種類の血糖降下剤があり、今年中に6種類目の血糖降下剤であるDPP-4阻害薬が発売される予定です。この薬が出ると、糖尿病の内服治療は大きく様変わりします。また、インスリンに関しては、インスリン自己注射に関しては現在、ヒトインスリン製剤よりもインスリンアナログ製剤が主流となっております。アナログとは類似構造物を指します。現在、2種類の持続型溶解インスリンアナログ製剤と3種類の超速効型インスリンアナログ製剤があり、その他3種類のインスリンアナログ混合製剤が国内で上市されています。今後も新しいインスリンアナログ製剤が出る予定で

す。インスリンを注射するデバイスや注射針もどんどん刷新されています。また、自己血糖測定に関しても、より高性能のものが出てきています。

ところで国際連合は平成19年より、インスリンを発見したバンティングの誕生日に因み11月14日を世界糖尿病デーと決めました。糖尿病は全世界で取り組んでいかないといけない病気として12月1日の世界エイズデーの次に指定されました。一方、我が国では平成18年の医療法改正にともない「4疾病5事業」が定められました。「4疾病」とは、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病を指し「5事業」とは救急医療、災害時における医療、へき地の医療、周産期医療、小児医療を指します。今や糖尿病は4大疾病の1つになっています。

呉地区は糖尿病専門医の数が少なく、患者に対し糖尿病専門医の数が足りないという現実があります。当院では重度の糖尿病患者に対しては入院して精査を行い、個別の治療方針を決定し、教育を同時に行い、退院後は開業医の先生との病診連携を積極的に行なっております。また、軽症の糖尿病患者に関しては外来にて精査加療教育後なるべく開業医の先生方にフォローアップしていただくようにしております。

糖尿病・内分泌・代謝内科をよろしく願いいたします。



世界糖尿病デーのシンボルマーク  
「ブルーサークル」



## リンパ浮腫外来の紹介

形成外科科長 杉山 成 史

呉医療センターでは、2009年9月より、リンパ浮腫外来を開設致しました。リンパ浮腫という病気とリンパ浮腫外来について、紹介させていただきます。

リンパ浮腫とは、リンパ液の流れが障害されて起こる浮腫（むくみ）のことです。

### リンパ管のはたらき

まず、リンパ浮腫を理解するためには、体の循環とリンパ管のはたらきを理解する必要があります。

血液は動脈を通り全身へ送られます。そして、毛細血管で酸素や栄養分を細胞に供給します。さらに、毛細血管で二酸化炭素や老廃物が集められ、静脈を通過して心臓へ返されます。この際に毛細血管で水分も出入りしますが、回収しきれなかった水分がリンパ管で集められて心臓へ返されます。リンパ管は全身に存在し、全身から水分を集めて心臓へ返しています。

リンパ管は心臓へ帰るまでの間にたくさんのリンパ節を通ります。体内に侵入した細菌は、リンパ液に混ざってこのリンパ節で捕まえられます。感染症でリンパ腺が腫れると言うのはこのためです。つまり、免疫系（細菌などから体を守るシステム）の役割も持っているのです。

### リンパ浮腫の原因

リンパ浮腫は、リンパ管によるリンパ液を心臓へ送り返す働きが、何らかの原因で障害されると起こると考えられています。

**続発性リンパ浮腫：**子宮癌や乳癌、前立腺癌などの手術で、リンパ節を切除された場合にリンパ浮腫が起こることがあります。手術直後から発症する場合もあれば、10年以上経ってから発症する場合もあります。また、放射線治療だけで起こることもあります。

**先天性リンパ浮腫：**生まれつきリンパ管の発達や働きが悪いため起こるリンパ浮腫。

**特発性リンパ浮腫：**原因がはっきり分からないリンパ浮腫。

### リンパ浮腫の診断

浮腫にはリンパ浮腫だけでなく、他の原因で起こるも

のもたくさんあります。静脈瘤や静脈血栓症で静脈の流れが悪い場合にも浮腫は起こります。その他、心臓や腎臓、肝臓などの病気で浮腫が起こることもあります。リンパ浮腫の診断には医師の診察が必要です。

### リンパ浮腫の症状

**浮腫（むくみ）：**皮膚や皮下脂肪に水分が過剰に溜まった状態です。皮膚を指で圧迫すると一時的にへこんで跡が残ります。

**皮膚の乾燥・角化：**リンパ浮腫では多くの場合皮膚が乾燥します。さらに進行すると、皮膚の角質が厚く、硬くなり、ひどい場合には象皮病と言われる状態になります。

### 蜂窩織炎

リンパ浮腫では蜂窩織炎をしばしば合併することがあります。蜂窩織炎とは、細菌による皮膚や皮下脂肪の感染症です。リンパ浮腫の手足は細菌に弱く、蜂窩織炎を起こしやすい状態にあります。蜂窩織炎になると、手や足が赤く熱を持って腫れます。場合によっては40℃前後の高熱が出ることもあります。

### リンパ浮腫の治療

リンパ浮腫は放置すると進行します。症状が進行するほど治療は難しくなってきますので、早めに治療を始めることが大切です。リンパ浮腫は完全に治すことが難しい病気ですが、たとえ良くならなくても治療を続けて進行を食い止めることが重要です。当院では、主に複合的理学療法と手術を行っています。複合的理学療法とは圧迫療法、リンパドレナージ、運動療法、スキンケアを組み合わせた治療です。また、当院ではリンパ管静脈吻合術を行っています。

### 複合的理学療法

**圧迫療法：**弾性着衣（ストッキング・スリーブ）や包帯などにより、手や足を圧迫し、むくみをふせぐ治療法です。リンパ浮腫専用の弾性着衣や包帯を使用する必要があります。

**リンパドレナージ：**流れの悪くなったリンパ流を、マッサージ

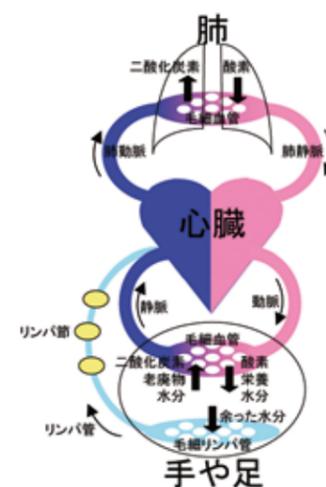
で補助します。普通のアーマなどのマッサージや、エステのリンパドレナージとは異なります。専門の知識や技術が必要です。

**運動療法：**弾性着衣や包帯を巻いた状態で運動することにより、リンパ管を断続的に圧迫し、リンパ流を促進する方法です。

**スキンケア：**リンパ浮腫の手足は細菌感染に対して弱い状態です。蜂窩織炎の予防のため、皮膚を良好な状態に保つことが重要です。

### 手術

**リンパ管静脈吻合：**リンパ管と静脈を顕微鏡下に吻合（つなぐ）することにより、溜まったリンパ液を静脈へバイパスさせる手術です。溜まったリンパ液が静脈へ流れることにより、むくみの改善が期待されます。ただし、この手術の効果については個人差があります。



体の循環の模式図



乳癌術後のリンパ浮腫。



リンパドレナージを行っているところ。



顕微鏡を使ってリンパ管をつないでいるところ。



左：実際の足  
右：赤外線カメラで見たリンパ管



顕微鏡でリンパ管（直径1mmと0.3mm）と静脈をつないだところ。



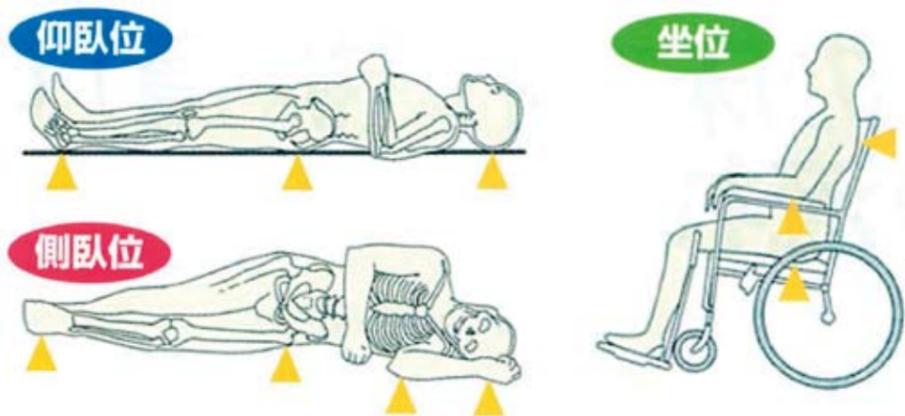
## 床ずれをつくらないために

皮膚・排泄ケア認定看護師 福田 聖子

朝晩と秋の涼しさを感じられるようになりました。私は6月から当院で皮膚・排泄ケア認定看護師として勤務しております福田と申します。現在、療養中の患者様の皮膚の健康を守るために、活動を行っています。床ずれは、寝ていることで同一部位に圧力がかかり皮下の血流が途絶えることで発生します。一度できてしまうと様々な要因から治癒するのが難しいケースもみられます。

予防には、健康な皮膚環境を保つこと、圧力を取り除

床ずれがしやすい場所



- 仰臥位：仙骨部・踵部・後頭部・肩甲骨部
- ファーラ位：尾骨部・踵部・背部
- 側臥位：大転子部・腸骨部・耳介部・足関節外顆部・肘関節部
- 坐位：坐骨結節部・背部・肘関節部

床ずれ回診の様子



おしりにできた床ずれ

くために体の向きを定期的にかえる工夫や、特殊マットや枕を使用して圧を逃がすこと、また、栄養状態の改善、リハビリ強化などが必要となります。予防活動として、床ずれ発生の危険性が高い患者様に医師・看護師・薬剤師・理学療法士・栄養士と協力しながらケアを行っています。

今後も入院中の患者様に安全で安楽な療養生活を送っていただくために、床ずれを発生させないように努めていきたいと思えます。

## 職場 4B病棟

看護師長 近藤 ヒロ子

4B病棟は定床52床の、小児科・小児外科を中心に重症加算3床を含むNICU併設の病棟です。24時間対応で呉地域の小児救急医療を担っています。NICUでは1000グラム前後、30週以上のハイリスク新生児の受け入れを行っています。産科の集約に伴い患児数も増加し昨年度は288名を受け入れています。特にハイリスク新生児受け入れに関しては、産科病棟と連携し新生児集中ケア認定看護師の事前訪問を行うなど、母児に寄り添うケアを実施しています。平成19年より病棟保育士の配置、平成20年より心理療法士によるコンサルテーションを実施。

また小学生・中学生を対象に院内学級も併設され入院中も授業が受けられます。七夕、お月見、クリスマスなど季節行事にスタッフ全員が様々な思考を凝らし取り組んでいます。プレイルームも充実しており、季節の飾り付けや玩具の工夫など、患児の安全で楽しい環境作りに努めています。



クリスマス会



## 学校祭を終えて…

学校祭実行委員長 46回生 森下 喬道

平成21年、呉医療センター附属呉看護学校第44回学校祭は「YES 呉CAN!! ～みんなの心に花を咲かそう～」というテーマで開催されました。私は“呉看生ならでき”ということを学校祭という機会を通じて呉看生みんなに感じてもらいたいと思いました。また、来ていただいた方々に学校祭を楽しんで頂き、心に花が咲くような明るい気持ちになっていただければと思い、長い準備期間を頑張ってきました。

私が実行委員長になりたいと思った理由は2つあります。まず1つ目の理由は、過去3年間男子学生の先輩方が学校祭実行委員長を務め、学校祭を見事に成功させてきたことです。女子学生の多い看護学校で男子学生が中心となって学校祭を作りあげることが、私はすごいことだと思います。私も同じように、学校を一つにまとめて最高の学校祭にしたいと思ったことが1つの理由です。2つ目の理由は、昨年度の催し物で“お化け屋敷”のリーダーを務めたことが関係しています。私は、人前で指示をしたり、人をまとめるということが得意ではありませんでした。そんな自分を変えたいと思い、昨年リーダーに立候補をしました。いざリーダーになってみると苦手意識もあり、人前で指示をしたり、堂々と話することができませんでした。しかし、クラスみんなが率先して協力してくれ、見事にお化け屋敷を成功することができました。その時私は、呉看生はすごく行動力や協調性に優れていると思いました。このため、大変かも知れないけれど、再度学校祭をみんなで盛り上げたいと思い実行委員長になりました。

学校祭の準備期間には、たくさんの出来事がありました。学校祭実行委員の中での意見の食い違いや、実行委員と各部署との連携・伝達のミスなどで辛い思いをした



(前夜祭) 歌のクラス発表

こともありました。時間のない中、各部署が考えて作った企画書をもとに行った全体会議は、先生方に不備の指摘を受けるのではないかと会議前からひやひやしていたことが今でも忘れられません。逆に、実行委員の中で楽しく笑いながら学校祭の飾りを作ったこともありました。実行委員長を務める中で少しずつではありますが物事を順序立てて考えることができるようになり、学校祭を通して成長したと感ずることができました。学校祭を通して本当にたくさんのことを学ばせていただきました。今は良かったことも悪かったことも含め、すべてが私にとっての大切な宝物です。

来年は47回生が学校祭を作り上げていく立場になります。今年は2年生の指導のもとで学校祭を盛り上げるのに協力してくれましたが、来年は47回生が中心となります。私たちと同じように何をしたいかわからないことばかりだと思います。私は今年度学校祭実行委員を務めた立場として、できる限りのサポートをしたいと思います。そして、きっと来年の実行委員を中心に自分たちの力で学校祭を成功させてくれると信じています。来年は今年以上にたくさんの方々に学校祭に来ていただき、47回生のカラーを出した学校祭にしたいと思います。

今回の学校祭を運営していくに当たり、スポンサーをはじめ病院関係者、教務の先生方に協力していただきま



茶道部によるお茶席



さあ始めよう！学校祭

した。特に教務の先生方の協力はとても大きなものだったと思います。この学校祭はたくさんの方々に協力をしていただき成功することができました。決して、呉看生だけでは学校祭は成り立ちませんでした。たくさんの方々の支えと協力を得て、出来上がったのがこの学校祭だと私は実感しています。

最後に、学校祭に協力していただいた地域の方々、教務の先生方、呉看生みなさんに心から感謝をしたいと思います。ありがとうございました。



有志によるハンドベル演奏

## 座禅研修を振り返って

46回生 沖村 美紀

座禅研修が始まって、普段とは全く違う生活で、疲れたこともあったけれど、それ以上に楽しかったです。決められた時間に決まったことをすることは、日常の中ではあまりないことなので新鮮だったし、たくさん寝ることができたので普段の寝不足も解消することができました。座禅には一度は行ってみたいと思っていたのでこの3日間は良い体験になりました。

一つだけつらかったのは、正座をすることでした。すごくしびれて立てなくなったりして大変でしたが、やっていたら慣れるもので、3日目には長時間正座ができるようになっていて、やっぱり3日前とは少し変わったこともあるのだと感じてうれしくなりました。



講義もどれも関心を持って聞くことができ、考え方もすごく勉強になったし、これからの生活に生かしていけたらいいな、というものもたくさんありました。座禅研修に行くにあたって、去年来た先輩に、食事がつらい、と聞いていたのですが、私はあまり好き嫌いもないし、食事もとてもおいしかったので、3日間おいしく食べることができました。食事前に五感の働をと覚えて食べていて、また、講義でその意味を知って、普段はあまり考えていなかったけれど、命を頂いて私たちは生きて

いるのだということを実感することができました。金子みすゞについての講義もおもしろかったです。私は金子みすゞの詩集を持っていて、とても興味があったのですが、今日たくさんを知ることができて良かったです。考え方や生き方が看護に深いつながりがある、大事にしていかなければならないことなんだなと思うことがたくさんありました。また、授業の中で講師の方が「生まれた時の涙は80歳の時にまた雨で降ってくる」という話を聞いて、本当に命はめぐっているのだと感動しました。



3日目には、仏教やその他の宗教からつながる看護についてお話をして頂きました。世界中にはたくさんの人たちがいて、考え方も生き方も私たちが考えている以上に多いので、自分だけの価値観だけで看護をせず、相手の立場に立って看護できる看護師になりたいと思います。

今回の研修では、自分を見つめなおす、ということが目標だったのですが、今回感じたことを忘れずにこれから生活していきたいと思いました。



## 「看護学校1日体験入学」を企画、実施して

呉看護学校 教員 崎本美子

看護学校1日体験入学を7月30日、31日の2日間実施した。2日間の参加人数は中学生・高校生・社会人を含め約300人であった。参加理由は「看護師に興味があった」「受験のため当校を知りたかった」「将来の進路を決定する上で参考にするため」などで、ほぼ全員が明確な目的意識を持って参加していた。また、参加した結果は、「看護師への関心が増した」「参考になった」とほぼ全員が答えており、1日体験入学の目的は達成できたと思われる。

企画の中でも、参加者自らが実施する看護技術体験は好評であった。看護技術体験は当校の3年生が対応した。参加者からは、「とても優しく丁寧に教えてくれた」とよい反応が得られた。当校では3年生が1年生の面倒をみるプリセプターに似た制度がある。看護技術の指導を行っている3年生達の姿を見て、4月から1年生に教えていたことや実習での学びから、人の世話をすることの楽しさや基本が備わってきていると実感した。また、3年生達は自ら考えて参加者に技術を教えるため、人に教える難しさや自らの行為に責任を持つ必要性も実感できていると感じた。

今回は新たな企画として呉医療センターの最新機能の一つとして放射線科の3DCTの画像見学を組み入れた。リアルで鮮明な画像から最新医療治療の一環を垣間見ることができ、参加者は呉医療センターの設備のすばらしさに感嘆していた。

また同じく新企画の呉看ファッションショーではパレコレまではいかないが、3年生が学校生活で着用する制服や実習衣などを着用しポーズをとりながら参加者に紹介した。参加者からは「学校生活のイメージがわき、とても良かった」と好評であった。

看護学校1日体験入学は3年生の協力なしには実施できない。企画から学生とともに考え、ともに作り上げていく過程の中で、学生の目線であるからこそ気づく内容があり、学生から学ぶことも多かった。また、ひとつの企画を学生とともに作り上げる楽しさも実感することができた。

多くの関係者の方々の協力を得て看護学校1日体験入学が無事終了できたことを感謝したい。



赤ちゃんかわいいでしょう  
髪をきれいに整えましょうね

沐浴後の赤ちゃんの髪の手入れ



みんな真剣に聞いています！

公開講座「赤ちゃんの沐浴」



酸素吸入をして呼吸は安定してきたかな。

救急対応の方法



上手に測定できるかな？

血圧測定



ただいま老人体験中、感想は？

装具をつけての老人体験



私の手きれいに洗えたかしら。

手洗い後、汚れが落ちたかグリッパーで確認中



体位変換、移動方法コツがあるんだよ。

体位変換、移動体験



ファッションショーの始まりです。

呉看ファッションショー



かっこいいでしょ

モデルが勢揃いしました



ちょっぴりすまし顔

## 『院内掲示（ご意見への回答）について変更しました』

専門職 阿佐 慎 治

呉医療センター内には、「ご意見箱」が11個設置されており、患者さん、その家族、来院者の方々からの様々なご意見が寄せられています。

頂いたご意見への回答文書は、正面玄関、救急外来前廊下、11階にあります各掲示板に表示しています。

今回当院では、寄せられたご意見について、現状がどうであるのか調査・検討！ 早い回答！ 正確な回答！ を大切と考え、ご意見を頂いてから回答までの流れを見直しいくつかの改善をいたしました。

### 1 回答文書専用の掲示板を新設しました。

これまで正面玄関の掲示板には、回答文書と一般掲示物（お知らせ文書、ポスター）が混在していましたが、これらを分けて見やすい掲示にすることとしました。（下写真）

### 2 早い回答を目指します。（一次回答）

正式な回答には調査改善等のため長い日数を要してしまいがちです。意見を寄せられた方々への不安解消等のことから、頂いた意見の内容について

- ・現状がどうであるのか（どうであったのか）
- ・その事について現在どのように対応しているのか（検討中、調査中など）

の情報を一次回答として掲示お知らせすることとしました。

更に検討を重ねた結果については、後日改めてお知らせします。

正面玄関の横に新設された掲示板



※1階総合案内の向かいにあります



## 病院紹介DVD ver.2が 完成しました

### 編集後記

暑かった夏も終わり、いよいよ秋本番です。食欲の秋、読書の秋、運動の秋と、色々楽しめます。とは言え、秋の楽しみも、やはり健康あっての物。疾病を未然に防ぐ、残念ながら病気になるってしまったら早く治すことが大切です。呉医療センターは、皆様の健康維持、健康回復に貢献出来る様、職員一同、一生懸命努力致します。（M. S）